

2006年12月18日

第8回 平和構築フォーラム 「NGOが現場から見たパレスチナ紛争 - 平和構築への道」

日本国際ボランティアセンター (JVC)
パレスチナ事業担当 藤屋リカ

人道支援の限界

2004年春、ガザ地区南部ラファでの大規模家屋破壊。
JVCが支援する幼稚園に通う子どもも若い命を落とす。
緊急支援 家を失った人々へ、 栄養失調児と母親、 栄養失調児を抱える貧困家庭)
2004年に緊急支援の対象となった家族の住んでいる地区が、2006年に軍事侵攻を受ける。
人道支援は必要だが、それだけでは問題は解決しない。

長らく占領下でのパレスチナの人々の暮らし パレスチナとイスラエルの格差

	占領下のパレスチナ	イスラエル
人口	350万人	680万人
1人当国民所得	\$1,920 \$1,110	\$16,240
乳児死亡(1000)	22	6
平均寿命	73歳	79歳
子どもの数	5.8人	2.8人
識字率	91%	95%
一日生活用水	70リットル	350リットル

2005年のイスラエル軍ガザ撤退は占領の終結とはいえない現実。
ヨルダン川西岸地区での「分離壁」の建設の継続。一方的撤退の持つ意味は？

国際法が遵守されない状況

- 1948年 - 国連総会決議 194
パレスチナ難民の帰還権
- 1949年 - 国連総会決議 303
エルサレムは国際管理下
- 1967年 - 国連安保理決議 242
最近の紛争において占領された領土からのイスラエル軍の撤退
(中東)地域すべての国がかつ安全でかつ、承認された境界内で平和に生存する
権利の尊重と確認
- 2004年 - 国際司法裁判所 (ICJ) による「壁」に関する意見的勧告

平和構築の可能性 (NGOの活動を通じた視点と活動)

- ・ アドボカシー (政治レベルへの働きかけ) 国際 NGO の連合体としてのアプローチ
国際 NGO の連合体の一員として、国際法の遵守という視点からのアプローチ
- ・ 信頼醸成 対立の中で協働する NGO の支援
地道に協働するパレスチナ、イスラエルの医療/人権系 NGO の活動を応援
- ・ 弱い立場にある人々の支援の必要性 (草の根レベルへの働きかけ)
パレスチナの人々への支援
圧倒的な「差」の中で公平な和平交渉は成立するか？
絶望からは平和は生み出せない。
人道支援は問題の解決ではないが、人々が希望を失わずに生きていくために必要。